

ろくおん通信

発行日： 1991年 9月15日

No. 37号

発行者： 盲人情報文化センター録音製作

7月の「音訳研修の会」から

漢字そのもの説明方法について

録音製作係 清水賢造

7月23日(火)に盲人情報文化センター6階ボランティアルームで行われた第3回目の「音訳研修の会」には、府下から、10グループ、約80人の参加がありました。今回は、漢字を説明する時の具体的な方法について、ICCBの火曜チームが実践例を発表しました。しかし、用意した例題が全部発表できなかつたり、充分時間をかけての論議ができなかつた点もありますので、今後具体例を『ろくおん通信』などで取りあげながらさらに深めていきたいと思ひます。

以下、当日の清水のレポートをもとに報告します。

ーレポートよりー

はじめに 私たちが、いま問題にしている「どういつ時に、どのように漢字を説明するのかわ」といつ問題で、さまざまな誤解や混乱も見られます。

聞き手に漢字そのものを思ひ描かせようかとか、難しい熟語をどうやってわからせようかと悩んでおられる方を見られます。しかし、利用者の中には、中途失明で漢字を思ひ描ける人もいますが、先天性の視覚障害者のように漢字そのものをイメージ出来ない人もいますので、彼らに通じるような説明が必要になります。

また、よく悩まれるケースに「難しい言葉」があげられます。これについては、原則として辞書に載っていれば説明の必要ありません。言葉の意味が難しくわからないだろうからという理由で説明することはしないということです。ことばが難しいからとか、わからないだろうからという基準は曖昧だからです。音声訳者が難しいと思ひ言葉につきつぎ説明を入れてしまうと、録音図書の内容を越え、「音声訳者の解説付き図書」になり、音訳作業を越える行為にもなります。

くどういつですが、説明をしなけければならないと提案しているのは、たとえそれがどんな本(専門書であれ、小説であれ)であっても、そのままでは正しく伝わらないという時に限定しています。

1. 漢字を説明する4つのケース

前回、どんな時に説明が必要になるかは発表していますが、再度、漢字の説明をする時の4つ

のケースは以下の時です。

ケース1. 同音異義語（辞書に複数あり、いろいろに解釈されるとき）

ケース2. 造語（辞書にない言葉のとき）

ケース3. 漢字（著者が漢字を問題にしているとき）

ケース4. その他（固有名詞などそれ自身が取りあげられているときなどで、字の説明をすることによってさらにイメージが深まる時）

以上のような場合に音声訳者の説明（補足）が必要になるわけです。ケース1の場合とケース2、3の場合とでは当然のことですが、「説明の仕方」は少し変わってきます。

2. それぞれのケースでの説明の留意点

ケース1のとき、

Aという言葉がBやCに解釈され、どれか特定できないときAであることが分かるように説明する。使われている漢字そのものを説明することに目的があるのではなく、使われている言葉がどれにあたるかわかるようにすることに目的があります。当然のことですがことばの意味を説明するものではありませんので注意してください。

ケース2)のとき、

説明がないとさっぱりわからない時が大半です。使われている漢字を説明することで著者の意図をわからせる。使われている漢字がどんな意味で使われているかがわかるように説明します。

ケース3のとき、

漢字が問題になっている時は、不足している点を説明します。また、著者が漢字を問題にしているときでも、音読みと訓よみの両方が出ていてその関係がわからないときなども説明します。

3. 漢字を説明するときの注意事項

1. 音声訳者が漢字の説明をしたことが、聞き手にわかるようにすること。

* 音訳表現技術を使い、本文との区別を明確にする。

* 「音声訳者注、注おわり」などつけ加える。

* 前後に適切な間をとる。

2. 本文が混乱するような説明は避けること。

* 説明で使用する熟語が違う意味に取られないように注意する。

* 漢字が問題になっている時は、著者も字について説明しているので混乱しないように注意する。→著者の説明が終わり、不足分を音声訳者注で補う。

3. あくまでも4つのケースについての説明を原則にする。難しい熟語の説明はしない。

* 言葉が難しいからといって説明することではない。

4. 漢字をイメージできない利用者にも通じる説明をすること。

*同音異義語を説明するのに偏や作りなどでの説明はしない。

4. どんな入れ方をするか

*注意!! この例は、「前後の文章で分からない時」という条件つきで取りあげています。この言葉が出てきたらすべて説明をしなければということではありません。

4-1. 同音異義語の場合

a. 熟語が複数の言葉に解釈され、混乱するとき。

複数の言葉の中で該当の言葉であることがわかるようにすればよい。使われている漢字を説明しなくても、その熟語が連想できる言葉で説明してもよい。

例1 高地と耕地の区別が必要なとき

- ・・・高地、クハ、チ、・・・・・・耕地、クハ、ヤス、チ・・・
- ・・・高地、コハ、クハ、・・・・・・耕地、コハ、クハ、ヤス・・・

例2 企画と規格を区別するとき

- ・・・企画、キカク、キカク、・・・・・・規格、キカク、キカク、・・・・
- ・・・企画、キカク、キカク、・・・・・・規格、キカク、キカク、・・・・
- × ・・・企画、キカク、キカク、・・・・・・規格、キカク、キカク、・・・・

例3 諫止するが監視するにとられる時

- 諫止する、カンシ、カンシ、・・・・ ○ 諫止、イマ、イマ、諫止する・・・
- 諫止する、カンシ、イマ、・・・・ ○ 諫止、カンシ、イマ、諫止する・・・

b. 漢字一字で混乱する時

漢字一字の時は、単に別の読み方を言い添えるだけでは、混乱する危険があります。なぜなら、利用者は、「セイ、キヨイ」とか「セイ、マコト」と言っても、漢字を知っている中途失明者にはわかりますが、漢字をイメージできない利用者には字の説明をしているとはわかりません。清(セイ)と清いが同じという知識がないと結びつかないからです。「連、連は連結の連」とか、「誠、誠は誠実の誠」あるいは「誠、セイはまこと」などと言い添えれば、字そのものは連想できなくても、字の説明をしていることはわかります。

熟語の場合は「○△」を説明するとき、「○△、○は、・・・、△は、---」といちいち丁寧にやらなくても、「○△、・・・、---」と言っても、音訳者が補足していることは比較的わかり易いですが、漢字一字の場合は、丁寧に補足しないとわかりにくということです。

例 誠

- セイハ、セイジツのセイ
- セイ、セイハマコト

(4) 『ろくおん通信』NO. 37号 1991年9月15日発行

- × セイ、セイハゴンベンニナル
- × セイ、マコト

c. 同音意義語が頻繁にでて混乱するときの工夫

初めにその言葉が出てきた所で、音声訳者注で、その旨ことわって言い添える。頻繁にできるため、できるだけわずらわしくないように工夫する。

最初は、丁寧に説明しあとはそれと分かる簡単な言い方を工夫する。また、あらかじめ断わった場合、言い添える言葉を説明する言葉の前に入れるか、後に入れるかは音声訳者の判断で行う。

例1. 想像と創造が繰り返し出てくるとき

・・・想像、音声訳者注、この場合の想像は思う方の想像です。以下本文中には、作る方の創造が出てきますが、「思う」想像、「作る」創造（思う方の想像、作る方の創造／想像ヲ、創造ツル/etc.）と言い添えます。注終わり。

例2. 同音異義語が、一般的な語と普通あまり使われていない語とが出てきた時、一般的な方には説明は入れず、誤解する方のみ説明を入れることを断わって入れる。

広葉樹 硬葉樹

・・・硬葉樹、音声訳者注、この場合の硬葉樹は、硬い葉の方の硬葉樹です。以下、広い葉の広葉樹と両方でできますが、硬い葉の時だけ、カタイといい添えます。注終わり。・・・

d. 説明で、逆さまに読んだ方がすぐに通じるときは反対に読んで言い添えてもよい。

例	降霜の期間 (抗争の期間)	帯刀 (台頭)
○降霜、 <u>シガ</u> オブル、降霜の期間	○帯刀、 <u>カナヲ</u> オブル、	
○降霜、 <u>コハ</u> オブル、 <u>ソハ</u> シ 降霜の期間	○帯刀、 <u>タノ</u> オブル、 <u>トウ</u> オケ、	
○降霜の期間。 <u>コソ</u> カ、 <u>シガ</u> オブル		

注意1. 同音異義語が出てきたらかならず説明しなければならないものでもありません。例えば、犯人を追及する・・・／・・・学問を追究する・・・などと出てきても、内容が殆ど変わらないような時にまで説明を入れるとかえって混乱することにもなります。（ツイキウという字が問題になっているときは別ですが。）

例えば、減刑と厳刑のように前後の文章で判断できないときは、説明しないと意味がまるで反対に伝わったりしますので必要ですが、漢字そのものが問題になっていない場合で、どちらに取られても内容がさほど違わないような時まで説明する必要はないでしょう。つまり、説明をするということは本文の内容が誤って伝わりそうな時に説明が必要なのです。

4-2. 造語

漢字を説明することで著者の意図を伝える。意図からはずれるような漢字の説明はさけること。

例1 育児は育自

- 始めの育児のジは児童のジ、後のジは、自分の自
- × 〃 後のジは、自由のジ
- はじめのいくじは育てるに児童のジ、あとは育てるに自分のジ

例2 …教師達は、何とか出口を見いだそうと底点の教育現場で苦しんでいる。

- …底点、ソコノテン、底点の教育現場で …
- …底点、テイハソコ、底点の教育現場で …

4-3. 漢字が問題のとき

a. 漢字が問題になっている時は、当て字であったり、誤字であったり、同じ意味で違う漢字をとりあげたり、その漢字の成り立ちを問題にしていたり ……、と取りあげられ方は様々です。著者が何を問題にしているのかをつかんで必要な説明をする。

例1 国の当て字は、金田 (カナダ)、和新頓 (ワシントン) が使われて …

…カナダ、カネニタンボノタ、ワシントン、ハイワノワニシンブンノシンにセイトンスルノトン …

b. 漢字を問題にしているが、同じ漢字でも違う読み方 (音読み・訓読みなど) をしているため、あるいはその漢字について話をしているがその関連が分からないときは説明する。(見えている人は、同じ漢字なのでその関連がわかる。)

例1 清少納言…。「清」は、姓から取った一字であろうが、「少納言」とは、どんな理由でつたけのだろう。清原家の系譜には ……

*セイがキヨハラのキヨと同じ字であることを知らせる

清少納言…。音声訳者注、セイショウナゴンノセイト、キヨハラケノキヨワオナジジデス注オワリ。清は、姓からとった …

例2 漢字をみれば恤れみ救うという考えで恤救規則が作られたことがわかる。

音声訳者注、恤救のじゅつは、あわれみ、きゅうは救うという字です。注おわり。

正誤表から ……その13

語句	誤読	正しい読み	語句	誤読	正しい読み
風態	フウテイ	フウタイ	間断なく	マダンなく	カンダンなく
画策	ガサク	カクサク	白湯	シラユ	サユ
愛弟子	アイデシ	マナデシ	相伴	ソウバン	ショウバン
出納	シュツノウ	スイトウ	雪崩	セツカイ	ナダレ

第4回音訳研修の会のご案内

テーマ： ()の処理について
日時： 1991年9月25日(水)
13:30~15:30

場所： 盲人情報文化センター9階ホール

文章中に出てくるさまざまな()の処理について、従来の処理および、これまでの処理ではできないものについての、新たな提案について、学習します。

リクエスト図書一覧

下記の図書は利用者から原本を用意されて製作依頼を受けていますが、音訳してもよいと思われるグループや個人の方がありましたら、下記までご連絡ください。はじめてのグループも歓迎します。
(連絡先: 06-441-0015 盲人情報文化センター録音製作係、清水)

- | | |
|--|---|
| 『Lisp/MS-DOS版エキスパートシステム構築法』
／高橋邦芳著：<情報科学、専門書> | 『「ちびくろサンボ」絶版を考える』／径書
房編：<社会問題> |
| 『天皇制の文化人類学』／山口昌男著：
<政治体制> | 『アルバート・アーノルドベンネット』／ベ
ンネット夫人編著、多田貞三訳：<伝記> |
| 『大人の始発駅』／河合奈保子著：<音楽> | 『灯』1、5、6、7月号／松本政高編：<詩歌> |
| 『白牡丹 竹内武城句集』／竹内武城著：
<俳句> | 『絵本のある生活 4』／正置友子著：
<図書評論> |
| 『最後の扇』／山本耕一編著：<俳句> | 『愛ゆらり』／時実新子著：<随筆> |

音訳を引き受けて頂いた図書とグループ名

- | | |
|---|--------------|
| 『私だけの勲章』／後藤正治著 | ICCBリクエストチーム |
| 『臓腑経絡学ノート』／北辰会出版編 | ICCBリクエストチーム |
| 『救世主の野望オウム真理教を追って』／江川紹子 | ICCBリクエストチーム |
| 『騎馬民族は来た? こない』／江上波夫他著 | えくてもあ |
| 『スウェーデンにおける自立生活とバーサルアシスタント』／アトルフ・D・ラウカ著 | えくてもあ |
| 『タイのタイ』／新野新著 | えくてもあ |
| 『日本語MS-DOS TMV3.1ユーザーズ リファレンス』 | えくてもあ |
| 『桃子歳時記』／辻桃子著 | えくてもあ |